

名古屋電気学園 クラブ活動だより

愛知工業大学
愛知工業大学名電高等学校
愛知工業大学附属中学校
愛知工業大学情報電子専門学校

平成 26 年秋季版

(平成 26 年 10 月 1 日)

附属中卓球部 4 連続全国制覇

後藤理事長から学園表彰を受ける
附属中卓球部の木造勇人主将



後藤理事長から学園表彰を受ける
名電高校相撲部の中嶋亮介選手



学園表彰 2 件 快挙称える

表彰式で後藤理事長は「おめでとう」と声をかけながら一人ひとりに表彰状や記念品を手渡し「卓球も相撲もよく頑張った。これからも精進を続けてほしい」と激励と期待を述べました。高橋会長も「君たちは今が伸び盛り。若いうちにしっかり努力してほしい」とお祝いを渡しました。受賞者挨拶や久保芳孝校長のお礼の後、特製ケーキを食べながら歓談しました。

附属中卓球部は 8 月 24 日、徳島県鳴門市で開かれた全中の団体戦



祝辞を述べる
後藤淳学園理事長

決勝で、城南（石川県）を破り、2 年連続 8 回目の優勝を果たしました。決勝戦では田中佑汰選手（2 年）、木造勇人選手（3 年）が連勝して先制、複も太田輝・橋本一輝組が勝ち、3-0 のストレートで圧倒的な強さを見せました。城南は青森山田（青森県）を破っての決勝進出でした。全中のほか春に開かれる全国中学選抜卓球大会でも昨年、今年と連覇しており、これで 4 連続全国制覇となりました。真田浩二監督は「準決勝の野田学園（山口県）戦はラストまで回る接戦でしたが最後に田中が素晴らしい精神力で締めくくり決勝へ進出できました。決勝もオーダーがよくストレート勝ちできました。5 連勝に向けてさらに頑張りたい」と新たな決意を述べました。

表彰を受けたのは次の皆さん。

【附属中卓球部】真田浩二監督、増田朗顧問、今枝一郎顧問、董崎岷コーチ（感謝状）、木造勇人主将、高見真己選手、宮本春樹選手、太田輝選手（以上 3 年）、田中佑汰選手、橋本一輝選手、加賀美利輝選手（以上 2 年）、堀川敦弘選手（1 年）

【高校相撲部】澤田勉監督、板倉将昭顧問、中嶋亮介選手（3 年）

高校相撲部の中嶋亮介選手（3 年）は相撲の世界ジュニア選手権（8 月 30 日・台湾）で、団体、個人戦ともに優勝しました。団体戦は日本チームの大將。個人戦は重量級に出場、決勝ではグルジアの選手を押し出しました。監督の澤田勉教諭は「とにかく前に出る攻めの相撲で、安定感がありました」と振り返っていました。中嶋君は世界大会に先立って開かれた第 63 回選抜高校相撲十和田大会（8 月 15 日・青森県十和田市相撲場）でも、個人戦決勝に進出、「高校横綱」の金沢市立工業高校の城山聖羅選手を寄り切りで破り初優勝しました。身長 182 cm、体重 150 kg。＝関連 2、3 面

高校相撲部 中嶋君 世界で優勝

名古屋電気学園は九月三十日、若水キャンパス南校舎で学園表彰を行い、第四十五回全国中学校卓球大会（全中）で優勝、四連続全国制覇を成し遂げた附属中卓球部と相撲の世界ジュニア選手権で中嶋亮介選手（三年）が優勝した高校相撲部が表彰されました。後藤淳学園理事長から表彰状が手渡され、クラブ活動後援会の高橋治朗会長からも祝福の言葉が贈られました。



祝福を述べる高橋治朗
クラブ活動後援会会長

お知らせ
名古屋電気学園の設置校はクラブ活動が大変盛んで、各種大会で好成績を収めています。その一端をご紹介します。

学園表彰 祝辞の要旨

※名古屋電気学園の学園表彰は、全国レベルの優勝を果たしたクラブに対し栄誉と努力を称えるものです。

後藤淳名古屋電気学園理事長

中学卓球部は去年から春夏、春夏と連続4回優勝できました。おめでとう。今年も応援を兼ねて大会を見に行きました。非常に苦しい戦いも見てきたが、皆、力をつけてよく頑張った。ピンチに力を発揮できるのは大事なことです。それを切り抜け、自分のものにして今後しっかり頑張ってもらいたい。今、仁川でアジア大会をやっており昨日は女子が準決勝で頑張っていた。その中には中学生も入っていた。皆も上をめざして頑張ってもらいたい。監督、コーチの皆さん、よく指導され、ご苦労様でした。中学生も大きくなり、今は青年の顔になってきた。この時期が自分の技を習得するのに一番いい時です。今までの努力研鑽を今後も忘れずに頑張ってください。相撲も、行く前にも中嶋君に会ったが、大きいね。重量級だからそうだと思うが。本場所では逸ノ城という、もっと大きいのが出てきて頑張っている。そこまでいかなくとも、今後精進して相撲界で頑張ってください。監督の先生方のご苦労様でした。おめでとうございます。

高橋治朗クラブ活動後援会会長

おめでとうございます。卓球部は皆で力を合わせることによって団体戦を勝ちました。人間は社会に出ても一人では何もできません。社会が助けてくれ社会に貢献することによって自分の人生が成り立っています。卓球の精神を生かし、また伸び盛りの時期ですから、努力するのは今しかないという気持ちで毎日頑張っていたきたい。皆さんは強い力、精神力を持っているチームですが、コーチの先生のアドバイスもよかったと思います。社会人の声を聴きながら自分を成長させるというのはスポーツに限らず人生に通じるものがあります。中嶋君も伸び盛りです。髪を伸ばし髷を結えるように、そういう余裕を持ってください。新弟子になるのもいいという気がします。若いうちに努力しながら、工夫しながら、体力だけでなく頭を使って総体的に動くのがスポーツであり、今後の人生に生きたような形でぜひとも努力してください。

厳しい1本乗り越えた

真田浩二卓球部監督 このような会、本当にありがとうございます。毎大会そうなのですが、1本の取り方によっては勝敗がどちらに転ぶか分からないという状況の中、優勝してきたので



すが、今回ほど1本の重みを感じた試合はありません。今までとは違う喜びを感じました。苦しい場面は準決勝の野田学園戦。「あと1本取られたら」という本当に厳しい状況に追い込まれたのですが、私も含めてコーチ陣も選手も「あ、だめかな」という気持ちには一度もならなかった。そんな気持ちが厳しい1本を乗り越えて優勝へ導いてくれたと振り返っています。選手たちは世界でメダルを取る夢に向かって日々精進していきます。

木造勇人主将 去年に続く優勝は、なかなかできることではないし準決勝も苦しい場面ばかりで優勝でき本当によかった。来年からも全中、インターハイがありますので応援よろしくお願いします。

落ち着いて相撲取った

澤田勉相撲部監督 このような会を開いていただき心より感謝申し上げます。中嶋亮介は附属中入学以来足かけ6年、豊橋から毎日通学しております。全日本ジュニアの強化指定選手に選抜され、昨年は2年生ながら高校ランキングはベスト8。インターハイでは優勝候補として活躍が期待されましたが、思うような力を発揮できませんでした。しかし、それ以降は落ち着いて十和田大会で優勝、世界ジュニアでは日本チームの大将として危なげなく落ち着いて相撲を取ってくれました。あくまでも通過点なので、大学へ行ったらに相撲に取り組み、学業にも専念して、またいい報告ができるようにしたいと思います。



中嶋亮介選手 選抜十和田大会は落ち着いて相撲が取れ、全国大会初優勝ができました。うれしかったです。これからまだ国体が控えており、それに向けても頑張りますので、応援をお願いします。

受賞者あつち要旨

久保芳孝校長お礼の言葉

私からはお祝いというより、お礼を一言申し上げます。顧問の方々、キャプテン、中嶋君に学校を代表してあらためてお礼を申し上げます。今日は卓球部、相撲部、部員すべて来ており、この会を催していただいたこと、さらに後藤理事長、高橋会長より心温まる励ましの言葉を頂戴し感謝申し上げます。中嶋君は大学へ進学して相撲道を極め、卓球部の選手も高校3年生はそれぞれ大学へ進学してより高いところを目指すと聞いております。中学3年生は名電高校へ進学します。中嶋君は世界を制したわけですが、卓球部も連続優勝に安住することなくより世界の高いところに目標を置き、相撲部も中嶋君に続いて高いところを目指していただきたい。



お礼の言葉を述べる久保芳孝校長

学園表彰の式を終え、出席者全員で記念写真を撮りました



徳島での全中で優勝した附属中卓球部員。左は応援の後藤理事長。写真は Nittaku (ニッタク) 提供



相撲の世界ジュニア選手権、個人戦重量級の決勝に臨んだ中嶋亮介選手

特製ケーキでお祝い
学園表彰では特製ケーキで祝いのが、すっかり恒例となりました。卓球部Ⅱ写真上Ⅱはラケット、相撲部Ⅱ同下Ⅱは軍配と各部のイメージを活かしています。歓談の席で披露、みんなで食べました。

“卓球の名電” 大学、高校も準優勝



閉会式で準優勝のメダルをかけてもらう大学男子卓球部の選手たち

十分な準備と対策をしてきましたが、力が及びませんでした。来年また頑張ります」と話していました。

大学はインカレ連覇ならず

大学男子卓球部は7月3～6日まで、東京都・墨田区総合体育館で開かれた第84回全日本大学総合卓球選手権大会（団体の部）の決勝に進出、強豪の明治大学（東京）と対戦しましたが1－3で敗れ、残念ながら準優勝に終わりました。昨年の優勝に続く連覇はありませんでした。

決勝では一番手の吉田雅己選手（経営学部2年）が3－0で快勝、先制しましたが、選手層の厚みを増した明治に阻まれ、後続を断たれました。鬼頭明監督は「今大会は明治に勝って連覇するために、

高校、19年ぶり優勝ならず

高校卓球部は甲府市で行われたインターハイで準優勝しました。大会に入ってから好調に勝ちを収め、8月8日に迎えた決勝は宿敵の青森山田（青森県）との対戦。「19年ぶりの優勝をつかみたい」と強い気持ちで臨んだという一番手の水谷良紀主将（3年）が積極的な攻めでまず1勝、好スタートを切りました。しかし、粘り強く戦ったものの後続を断たれ1－3と及びませんでした。

今枝一郎監督は「準決勝まではパーフェクトだった。いい試合を見せてくれ、感謝している」と、選手たちの活躍をねぎらっていました。



インターハイであと一歩及ばず準優勝となった高校卓球部。写真は月刊「卓球王国」提供

大学生の活躍

大学男子卓球部 日本リーグ前期3位



強豪の東京アートを迎えて本学で行われたホームマッチ。手前選手は本学の吉村

大学男子卓球部は6月に福島県の郡山総合体育館で開かれた平成26年度前期日本卓球リーグ郡山大会で5勝2敗の成績を収め、3位となりました。24年度前期の2位に次ぐ好成績でした。

郡山大会に先立ち、6月7日、八草キャンパスで、東京アート（東京）を迎え「ホームマッチ」が行われました。東京アートは1部優勝20回、総合優勝13回を誇る強豪。試合は残念ながら1-3で敗れましたが、吉村真晴選手（経営学科3年）らが善戦しました。

約250人が観戦に訪れ白熱した戦いを見守りました。試合後には、日本のトッププレーヤーと観客・ファンが直接触れ合い、コミュニケーションを深めてもらおうと交流会も初めて開かれ和やかに歓談。記念写真を撮ったり、サインをもらったりしてスポーツの素晴らしさや熱戦の余韻を共有しました。

レーシングカート部が全日本学生カート選手権で準優勝

レーシングカート部は8月12、13日、群馬県・榛名モータースポーツランドで行われた「第19回全日本学生カート選手権」で準優勝しました。



疾走するレーシングカート

SSクラスで長野大地選手（機械学科4年）が1位、FDクラスで小林由奈選手（経営学科4年）が2位、TIAクラスで堀川祐希選手（機械学科3年）が3位と、各選手が大健闘。素晴らしい結果を出し、団体2位に貢献。準優勝となりました。

全日本学生カート選手権は、学生のカート選手たちが集まる年に一度のイベント。本学レーシングカート部は、第1回大会から連続出場しており、優勝3回、上位常連の強豪校として知られています。メンバーは「今回は惜しくも優勝を逃しましたが、来年の大会では優勝できるように、これからも部員一丸となって頑張っていきたい」と抱負を話しています。



表彰台に立つSS1位の長野選手（中央）、FD2位の小林選手（左）、TIA3位の堀川選手（合成写真）

アーチェリー王座決定戦に出場

東海学生アーチェリー王座出場校決定戦が4月20日、愛知学院大学で行われ、本学洋弓部・男子が見事優勝し、6月に開催された第53回全日本学生アーチェリー男子王座決定戦への出場を決めました。

最終順位は以下の通りです。

①愛知工業大学②愛知学院大学③名城大学

【愛工大出場選手】

岩坂謙吾選手（情報科学科4年）長澤宏平選手（機械学科2年）馬場博晃選手（情報科学科4年）近藤西哉選手（電気学科3年）

東海学生アーチェリー選抜選手権大会本戦が5月11日、愛知学院大学で行われ、洋弓部の長澤宏平選手が優勝しました。また、岩坂謙吾選手が6位、川合智也選手（電気学科3年）が12位と健闘し、各出場校の上位3選手の成績により順位が決定する団体部門で本学洋弓部は2位となりました。

長澤選手、岩坂選手、馬場選手は5月24、25日に宮城県の東北工業大学で行われた全日本学生アーチェリー東日本大会に、また洋弓部が6月21、22日に静岡県ヤマハリゾートつま恋で行われた全日本学生アーチェリー男子王座決定戦に出場しました。



洋弓部のメンバー

和気あいあいと練習

洋弓部では、優秀な成績を収めているOBや上級生が多く、学年や男女隔てなく和気あいあいとした雰囲気の中、経験者や上級生が丁寧に指導、未経験者も技術の向上に努めています。アーチェリーの技術だけでなく道具に関する知識なども先輩から後輩へと受け継がれ、なかでも道具のメンテナンスは競技結果を大きく左右するため、技術を磨く練習と同じくらい重要なことです。洋弓部は、八草キャンパス小体育館横のアーチェリー場で毎週月曜・水曜・金曜の授業後に活動しています。



関西リーグでの試合から

フェンシング部 フルーレで全日本学生王座4位

フェンシング部は関西学生フェンシングリーグ戦（4～5月、愛知など）で、エペ4位、サーブル4位、フルーレ2位となり、大会総合結果で準優勝を獲得しました。フルーレは6月15日に東京・中央大学で行われた全日本学生王座決定戦に出場し、4位入賞を果たしました。

関西リーグでの試合結果は以下の通りです。

【エペ】①朝日大学②京都産業大学③立命館大学④愛知工業大学

【サーブル】①朝日大学②中京大学③立命館大学④愛知工業大学

【フルーレ】①朝日大学②愛知工業大学③京都産業大学④同志社大学

五定選手、メキシコ大会に出場

本学フェンシング部の五定（ごじょう）寛司選手（経営学部2年）は9月6、7日、札幌市で開かれた第4回サーブル・チャレンジ・カップ北海道大会に出場、19歳以下のジュニア部門で4位となり、10月9～14日にメキシコ国カンクンで開かれるジュニアワールドカップ・メキシコ大会（サーブル種目）に日本代表として出場します。

五定選手は山口県立熊毛南高校でフェンシングを始めました。身長178センチで左利きの有利さを活かし、昨年は関西リーグの新人戦で2位となりました。ワールドカップには世界から約200人の選手が参加し、五定選手はベスト8入りを目指しています。小西貴之コーチは「いい素質を持っているので初の海外経験を積んで強い選手になり、愛工大フェンシング部を牽引する存在になってほしい」と話しています。



メキシコ大会に派遣される五定選手

ライフル手塚選手が準優勝 第85回中部学生ライフル射撃選手権が5月10、11日、愛知県総合射撃場（豊田市）で行われライフル射撃部の手塚奎佑選手（情報科学科4年）が準優勝しました。



銃を構える手塚選手

手塚選手は10m先の標的を立射で撃つエアライフルの部門に出場。1日目に行われた予選で3位となり、上位8名で行われる決勝に進出しました。決勝では得点差により徐々に選手が脱落していき、最後の2人に残り緊迫した試合となりましたが、惜しくも1点差で2位となりました。この結果を受けて、手塚選手は6月18～22日の西日本学生ライフル射撃選手権（長崎県・小江原射撃場）に出場しました。

ライフル射撃部は、毎週火曜17時から計算センター1階講義室で活動しています。

ゴルフ部が躍進、中部学生ゴルフ1部校対抗戦で準優勝

本学ゴルフ部は9月17、18日、三重県・津カントリー倶楽部で開かれた中部学生ゴルフ1部校秋季学校対抗戦で準優勝、本年春季の6位から躍進しました。これに伴い10月30、31日に埼玉県・こだまゴルフクラブで開かれる団体戦の信夫杯争奪日本大学ゴルフ対抗戦の出場権を得ました。

津カントリー倶楽部は非常に難易度が高く、300ストロークを切る学校はまれですが、その中で初日の成績がトータル297ストロークと1部校6校中の首位でターン。2日目は風が強く、ピンポジションも厳しく、スコアを落とす選手が多い中、特に松田涼伽選手（経営学部1年）が好スコアを出すなど勢いを持続できたのが勝因です。岩崎 成主将（同3年）は「うちはスター選手がいないので、部員達には常々一致団結を訴えてきました。選手達がまとまって強くなり、強豪校の中、素晴らしい成績を残せたのだと思います。全国大会では選手一同奮起して上位入賞を目指します。」と決意を述べていました。

なお、信夫杯の前に同会場で開かれる個人戦の朝日杯争奪日本学生ゴルフ選手権には大橋和真（同4年）、荒木暉久（同3年）の両選手が出場します。

本学選手の成績は次の通り。（各校5人がプレーし上位4人の合計ストロークにより順位を決定）

【1日目】大橋和真 72（36、36） 田畑佑弥 78（39、39） 荒木暉久 72（35、37）

佐藤祐希 75（38、37） 松田涼伽 78（37、41） 合計 297

【2日目】大橋和真 85（43、42） 田畑佑弥 88（45、43） 荒木暉久 85（42、43）

佐藤祐希 81（40、41） 松田涼伽 79（42、37） 合計 330



中部学生ゴルフ1部校対抗戦で準優勝の本学ゴルフ部



「スーパーチーム」でイランと合同チームを組み優勝した名電高生チーム

ロボカップ世界大会 名電高チームが優勝

ブラジルで7月に開かれたロボカップ世界大会ジュニア部門に高校の「TEAM ADVANCE」が出場、「スーパーチーム」という競技でイランと合同チームを組み見事優勝しました。組む相手や課題は前日に発表されるという難競技ですが、言葉の壁を乗り越えた協力、臨機応変の対応が光りました。単独で挑んだレスキューB競技では5位でした。

出場したのは中高一貫の高校1年生、メカニカルアーツ部の三村柚貴君、塚本紳二君、宮地玲央君の3人です。スーパーチームはレスキューB競技に出場した20チームを主催者側がランダムに2チームずつ組みあわせ、計10チームで競いました。前日に示された課題はレスキューB競技とは全く異なり、原発事故で拡散した放射性物質に見立てた直径5センチの発泡スチロールの3個の玉を所定の場所まで運ぶという内容です。このため徹夜でロボットを改良しプログラムも組み直しました。イランチームとはもちろん初対面ですが、イラン側が球を集め、日本側が運ぶという役割分担が功を奏したようです。

トロフィーを手にした三村君たちは大喜びで「次もレスキューBでリベンジする」と話していました。レスキューB競技は自律走行ロボットが迷路を進み、壁に隠された被害者を熱感知で探し出し、時間内に帰還（脱出）するルールです。15歳～19歳が対象で日本の2チームを含め世界から20チームが出場しました。高校1年の三村君たちはほとんど最年少と言え、年上のチームに伍してよく健闘しました。

3人は大学エクステンションセンターが運営する本山口ロボット講座でともに学び、附属中、高校を通じてロボットに取り組む仲間。今年3月の日本大会レスキューB競技で準優勝、世界大会出場権を得ました。8月28日に大村秀章愛知県知事、河村たかし名古屋市長を訪れ優勝報告、祝福を受けていました。10月19日に開催される名古屋まつりのパレードに登場する予定です。



大村知事（右）と河村市長（左）の祝福を受ける三村君（中央）たち

名電高校野球部は9月23日、小牧市民球場で行われた第67回愛知県高校野球選手権大会決勝で誉高校と対戦、0-2で惜しくも敗れましたが、10月18日から三重県で開催される東海大会出場を決めました。来春の選抜高校野球出場へ可能性をつなぎました。

先制された名電高校は誉を上回る11安打を放ちましたが、好機にあと1本が出ず、逆転はなりませんでした。

名電高校野球部東海大会に出場



決勝で3位の近藤君

短距離近藤君 今季高校最高10秒36

高校陸上競技部（短距離）の近藤晃（ひかる）選手（3年）は7月31日、山梨県甲府市で開かれたインターハイ陸上競技の男子100メートル決勝で10秒71をマーク、3位に入りました。今大会の目標は決勝進出だったので3位は「予想以上の成績だった」といいます。特に準決勝では今季高校最高の10秒36でトップ。これは高校歴代17位の記録で、自己ベストも0秒22更新しました。準決勝では集中力を高めてスタートダッシュに成功、ぐんぐん加速できたといいます。決勝も気負わずにレースを楽しもうと臨みました。

中学時代は野球部で、本格的に陸上を始めたのは高校入学後。大学でも陸上を続けたいとのこと。



OBの吉田選手

名電高校相撲部OBの吉田選手が実業団横綱に

名電高校相撲部OBの吉田圭佑選手（アイシン精機）が9月21日に埼玉県立武道館で開催された第56回全日本実業団相撲選手権大会で初優勝、全日本実業団横綱となりました。吉田選手は22歳、岡崎市立新香山中学から名電高校、日本体育大学を経て今年4月アイシン精機に入社。高校2年生の時には高校横綱にもなりました。

実業団横綱は本校相撲部OBとしては第15代の竹内晋作さん（アイシン精機）以来2人目。アイシン精機としても41年ぶりになります。

尚、昨年の実業団横綱は九月場所で話題になったイチンノロブ（鳥取県体育協会）＝逸ノ城です。

高校総体など出場 中高 15 クラブ表彰

学園は平成 26 年度全国高校総体など全国大会に出場の高校 12 クラブ、中学 3 クラブを 7 月 19 日、9 月 19 日の 2 回にわたり若水キャンパスでクラブ表彰しました。後藤淳理事長が各部の顧問、主将に励ましの言葉をかけながら激励金を手渡しました。PTA、同窓会からも贈られました。

表彰を受けたクラブは次の通り。

◆平成 26 年度全国高等学校総合体育大会

卓球部 山梨県小瀬スポーツ公園体育館・8 月 5～9 日

フェンシング部 神奈川県立体育センター・8 月 1～4 日

バレーボール部 東京体育館・8 月 1～6 日

相撲部 東京国技館・8 月 5～7 日

自転車競技部

ロード：山梨県笛吹市周回特設ロードコース・8 月 5～9 日

トラック：山梨県境川自転車競技場・〃

ウエイトリフティング部男子 山梨市民総合体育館アリーナ・8 月 1～5 日

陸上競技部（短距離） 山梨中銀スタジアム・7 月 30 日～8 月 2 日

水泳競技部 千葉県国際総合水泳場・7 月 30 日～8 月 2 日

◆第 16 回全国高校女子ウエイトリフティング競技選手権大会

ウエイトリフティング部女子 広島県府中市立総合体育館・7 月 18～20 日

◆第 38 回全日本ボウリング選手権大会

ボウリング部 品川プリンスホテル・7 月 29、30 日

◆第 50 回全国高校将棋選手権大会

将棋部 茨城県武道館・7 月 27、28 日

◆全日本吹奏楽コンクール

吹奏楽部 名古屋国際会議場センチュリーホール・10 月 25、26 日

◆2014 ジャパンカップ チアリーディング日本選手権大会

チアリーディング部 国立代々木第一体育館・8 月 22～24 日

◆第 27 回全国少年フェンシング大会

中学フェンシング部 駒沢オリンピック公園体育館・7 月 25～27 日

◆第 44 回全国中学校相撲選手権大会

中学相撲部 石井町石井中学校体育館（徳島県）・8 月 23～24 日

◆第 45 回全国中学校総合体育大会

中学卓球部 アミノバリューホール（徳島県）・8 月 22～25 日



9月19日のクラブ表彰



7月19日のクラブ表彰

名古屋電気学園クラブ活動後援会（高橋治朗会長）は今年から、全国大会出場を決めたクラブを激励するクラブ表彰の際に、各クラブに激励費を贈ることになりました。9 月 19 日の表彰分は既に久保芳孝校長から伝達されていますが、7 月 19 日の表彰分については高橋会長と辻本昌孝副会長が 9 月 30 日



に久保校長に託しました＝写真。高校の P T A、同窓会も前から贈っています。



左からウエイトリフティング部の肝付華澄さん、相撲部の中嶋亮介君、フェンシング部の島田翔大君、旗手のバレー部の中根雄介君

高校総体愛知県選手団結成式で本校も表彰

高校総体愛知県選手団結成式が 7 月 9 日、名古屋市公会堂で行われました。本校関係では、大会で旗手を務めるバレーボール部主将の中根雄介選手（3 年）に県高体連旗が手渡されたほか、連続優勝を称えて 30 年連続の相撲部、15 年連続のフェンシング部、5 年連続のウエイトリフティング部女子がそれぞれ表彰されました。



ベートーヴェンの交響曲第7番など熱演 愛工大管弦楽団が第17回定期演奏会

愛知工業大学管弦楽団は9月7日、名古屋市の三井住友海上しらかわホールで第17回定期演奏会を開き、ベートーヴェンの交響曲第7番などを熱演、大きな拍手が贈られました。

この日は、プロのビオラ奏者として知られ、相山女学園高校教員の中村暢宏氏を客演指揮者に迎え、ベートーヴェンの中でも大編成の難曲として知られる第7番のほかチェコ民謡をテーマにしたスメタナの「わが祖国より ブラニーク」、エロール（フランス）のワルツ「ザンパ序曲」の3曲を披露しました。3曲とも初めて取り上げたもので、団員たちは意欲的に練習に取り組んでいました。

同楽団は昭和58年に同好会としてスタート、その後、大学のクラブとして活動しています。

メンバーは機械学科3年の野坂弥部長はじめ25人と小世帯ですが、今回のように大曲に取り組む演奏会は東海学生オーケストラ連盟に所属する他大学の学生の応援を得て編成します。

顧問の隅山孝夫基礎教育センター教授は「学生たちは意欲的にやっています」と話し、愛工大名電高校吹奏楽部出身で監督として指導にあたっている水野一平・大学教学センター主幹も「練習の成果で胸を張って素晴らしい演奏を披露できました」と話していました。

来
年
7
月
に
は
食
べ
ご
ろ
と
い
い
ま
す
桶
に
仕
込
ん
だ
「
名
電
味
噌
」
。



「名電味噌」熟成中 名電高校の家庭科研究部

名電高校の家庭科研究部は愛知の食文化の代表である豆みそを高校のブランドにしようと「名電味噌」を仕込み、来年7月の仕上がりを目指して熟成中です。日本の和食が世界遺産に指定されブームとなる中、味噌について勉強しようと生徒たちが豊田市の「蔵元 榎塚味噌」を見学、話を聞いたのがきっかけ。微生物の勉強から始めビデオで詳しい知識を頭に入れ、自分たちで初めて味噌づくりに挑戦することになりました。

蒸した大豆に麴を振り掛けてできた味噌玉を蔵元から提供してもらい、学校の部室で部員たちが7月に仕込み作業を行いました。味噌玉を潰して塩と水を加えて桶に詰め、飯田菜月部長（3年）がしっかりと蓋をしました。1年ほど寝かせ、来年7月頃には食べごろとなります。仕込んだ量は60キ、味噌汁にすると約4000杯分あり、「味には自信があります」（飯田部長）と生徒や近所の住民にもおすそ分けしようと考えています。

顧問の内海那保子教諭は「卒業式でプレゼントしたり、熱中症予防の味噌菓子や五平餅も作ったりして、高校の名物になるよう続けていきたい」と話しています。

同研究部は20年前に華道部として4人でスタート、15年前に料理や手芸もやりたいと衣替えし、人数も増えて現在の部員は男子8人を含め45人います。活動の中心は料理作りで、火、金曜日の放課後、中華や和食などテーマを決めて楽しく調理に取り組んでいます。また今年の学校祭ではマフィンと焼うどんを作り、大人気でした。



料理作りなど放課後に調理室で行われる家庭科研究部の活動



学校祭で人気を集めた焼うどんの模擬店